

3 / 2 校長講話

私が子供の頃の話をしてします。

私には、Kちゃんという友達がありました。Kちゃんはとても頭がよくていろいろなことを知っていました。よくKちゃんの家で漫画を読んだり、ゲームをしたりしました。しかし、外で遊んだ記憶はありません。

それはなぜか。

Kちゃんは、難しい病気を抱えていたからです。筋肉が衰えていく病気です。

運動会の徒競走、3、4年生の頃は、ゆっくりでしたが走ってゴールしたことを覚えています。5年生では、松葉杖を使ってゴールを目指していました。6年生のクラス対抗全員リレーでは、担任の先生が横についてトラック一週を松葉杖で走りきったことを覚えています。Kちゃんが走りきったことがクラスの喜びでした。

Kちゃんは、クラスみんなに「ありがとう」と何度も言っていたことが忘れられません。

中学校になっても私はKちゃんと同じクラスになりました。

どうやら小学校の担任の先生が、私とKちゃんを同じクラスにした方がよいと中学校先生に伝えたようです。このことは母から聞きました。

このころのKちゃんは、一人で立つことができず車椅子を使っていました。手や足は細くなっていました。私は、教室移動などKちゃんの手椅子を毎日引いていました。

その都度、Kけんちゃんは「ありがとう」と言ってくれました。私はKちゃんから「ありがとう」と言われたくて車椅子を引いているのではないのだけれど「ありがとう」と言われると…心がぽかぽかし幸せな気持ちでいっぱいになりました。

中学1年生が終わる頃、Kちゃんは休みがちになり、とうとう学校には来ることができなくなりました。筋肉を衰えさせる病気が進んでいたのです。そして、Kちゃんは、天国へ行きました。

お父さんとお母さんと私でお葬式に行きました。

私はKちゃんの写真の前で「ありがとう」と何度も伝えたことを思い出します。Kちゃんが天国で心がぽかぽかとあたたかく幸せになってほしいからです。

私は、「ありがとう」は世界で一番すてきな言葉だと思っています。

「ありがとう」があふれる光が丘夏の雲小になったらいいなと思っています。